

れき ぶん

となん歴史民だより vol.50

Morioka tonan history and folklore museum

平成 29 年 3 月 31 日発行

発行 盛岡市都南歴史民俗資料館 盛岡市湯沢 1-1-38 Tel/Fax 019-638-7228



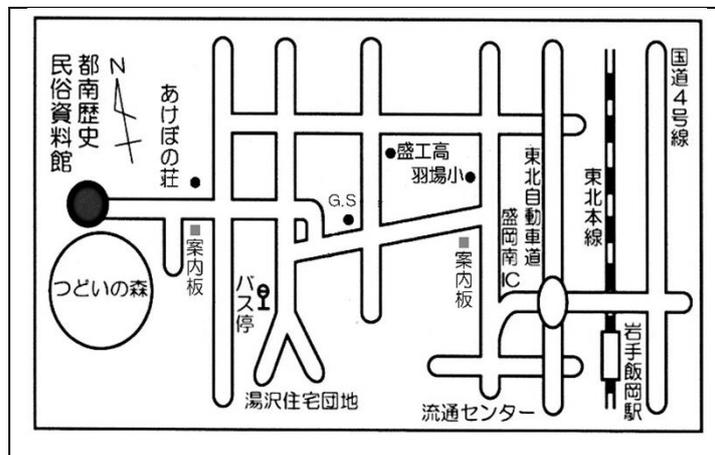
市民参加展「鎌田コレクション 第7回旧暦ひなまつり展」

是非ご来館ください。お待ちしております。

— もくじ —

- 山と人々の暮らし
- 鎌田コレクション
第7回旧暦ひなまつり展
- 次回企画展のご案内
- 資料は語る⑤
- 盛岡市所在
指定・登録文化財紹介⑤
- となんの昔ばなし⑤

MAP☆ACCESS



○利用案内

開館時間

午前 9 時から
午後 4 時まで

入館料

無 料

休館日

月曜日
(休日に当たるときは、
直近の平日)、年末年始

山と人々の暮らし～当館収蔵資料から読み解く～

盛岡市都南歴史民俗資料館 館長 杉本 勉

請 願 書

東西見前村協有山は、近頃荒れており、生育した樹木がなく、藪地となっている。保護の対策を講じる者はいない。宝の山は荒れており、誠に遺憾である。そこで私どもがそのことについて相談した。これから30年を目途として、私どもは森林保護と営林を行いたい。ついでには左記の者に対し、耕作地の反別割で土地の分与をお願いしたい。

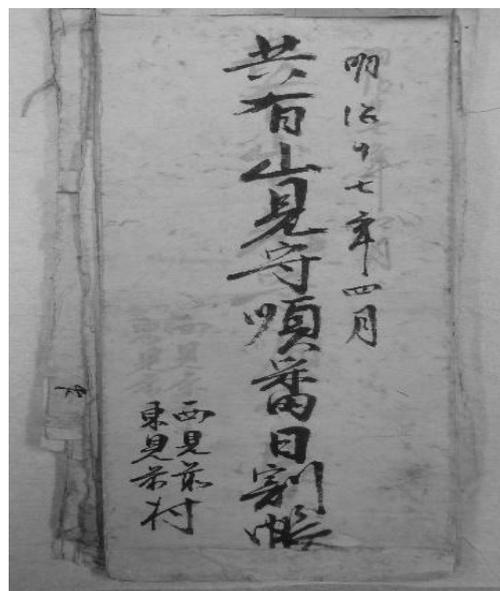
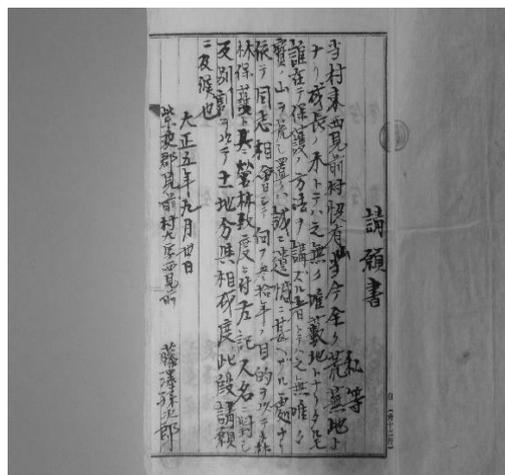
大正5年9月30日

(当館所蔵大宮崎文書より 筆者による大意口語訳)

この文書は、東西見前村（東見前村・西見前村の2村）の百姓24名が東西見前村総代に提出しようとした請願書の一部です。この請願書が実際に提出されたかどうか、あるいは受け取った総代がその後どのように処理したかは不明です。なお、百姓24名中、署名に捺印があるのは半数の12名であることがこの文書からわかります。

荒れた共有山（入会山）を何とかしたいとの思いは皆同じだったのでしょう。しかし、山林の整備は容易ではありません。そのことをいちばん理解していたのは百姓たちだったのでしょう。

見前村は、地味豊かな平地が広がっており、藩政時代には「南部藩の米びつ」と呼ばれていました。江戸時代後半～昭和初期は馬の需要が増大します（農耕馬・たい肥生産・運搬用馬・軍用馬等）。見前村でも馬の飼育が行われます。『都南村史』によると明治9年の見前村における馬の飼育頭数は355頭、現都南地区全体では1540頭でした。これだけの馬を養うための餌（稈）は、水田からの稲わらの他に、夏の生草・冬の補充飼料としての萩や葛です。生草や萩・葛は、山に行かないと入手できません。山がない見前村では、どのようにして稈を得ていたのでしょうか。



生草は厨川（現在の北厨川小学校周辺）から、萩や葛等は川目の山から得ていました。厨川へは志和街道を経ての片道24kmの道のりでした。川目にある共有山には、北上川を船で北上し、現在の東安庭・門付近から川目の共有山を目指したと伝えられています。

共有山の利用については、様々な掟が定められていました。当館には、「明治十七年四月共有山見守順番日割帳」（武藤家文書）があります。山林の管理上注意が必要なのは野火です。野火の管理のため、村人には寝ずの番が割り当てられました。川目の共有山は官有地であったため、入山税8円80銭が定められていました。北上川の船渡りに係って船場所規拵代6円4銭が定められていました（「入山税金及船場針金新規拵代割附帳」武藤家文書）。

「南部藩の米びつ」と呼ばれるほどの豊かな地でも、山がないということで、見前村の人々は多くの苦勞をしたことが、当館所蔵の文書から読み取ることができます。

参考文献：農事組合法人東西見前組合二〇〇年記念誌『いれ山200年のあゆみ』平成6年

『都南村史』昭和49年 澤崎 坦『馬は語る』岩波新書1987

資料編集委員会『岩手の入会調査研究資料集』科研費基礎研究C23530401 2016(岩大図書館)

市民参加展

鎌田コレクション 第7回旧暦ひなまつり展



当館では、平成29年3月18日(土)から4月16日(日)まで市民参加展「鎌田コレクション 第7回旧暦ひなまつり展」を開催しております。本展は、例年旧暦の時期に合わせて開催しており、今年で7回目の開催となります。市内在住の収集家・鎌田隆氏所蔵の雛人形をはじめ、花巻市在住の西村氏制作の貝雛、盛岡市三本柳在住の平船氏制作のちぎり絵のほか当館所蔵の花巻人形も展示いたします。

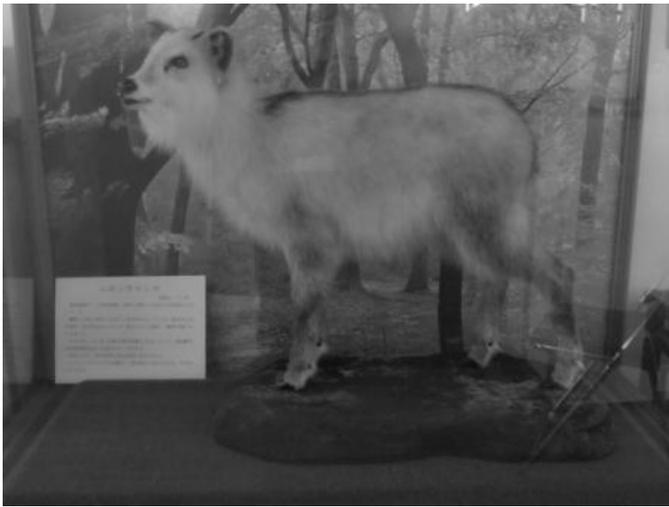
平成29年度 次回企画展のご案内

企画展 「馬と生きるくらし」

平成29年5月20日(土)～6月25日(日)

馬の荷付姿(下湯沢老人クラブ提供)





【剥製 ニホンカモシカ】

当館入口正面で来館者の皆様をお待ちしているのは、当館で唯一の剥製ニホンカモシカです。ニホンカモシカは、反芻性草食動物で岩場や傾斜のある森林に好んで生息していることが多いです。昭和9年(1934)国の天然記念物に指定されましたが、戦後に個体数が減少したことを受けて同30年(1955)には特別天然記念物に指定されました。

当館で展示されているニホンカモシカは、市内大ヶ生に生息していたものです。近年では、市内の住宅地や市街地などでニホンカモシカが目撃されることも多いようです。

県指定有形文化財



衝角付甕

上田塚森古墳群 1号墳出土品 6点2組

平成元年(1989)、市内黒石野一丁目地内における発掘調査により、7世紀中葉の築造と考えられる古墳が確認されました。墳丘は完全に削平されており、主体部の墓坑と周坑の一部が残存していました。主体部の土坑からは、衝角付甕、土師器甕、刀子、環状錫製品、琥珀原石が出土しました。この甕は、古墳出土の衝角付甕としては国内最北の出土例となります。

参考用資料：盛岡市教育委員会『もりおかの文化財』(2008)

『梨』

となんの昔ばなし五十

昔のことであつたそうです。和尚さんと小坊主がおりましたが、和尚さんは欲張りであつたため何でも一人で食べてしまひ、小坊主には食べさせてくれませんでした。あるとき、美味しい梨が三つありました。和尚さんは、小坊主に食べられては大変だと思ひ、小坊主に「こら小坊主、お前がこの梨を食べると死んでしまうから、決して食べてはいけないうよ」と言つて出かけました。

小坊主は、「はい」と答えて大人しく留守居をしていましたが、茶道具を片付けるときに和尚さんの大事な湯飲みを落として壊してしまいました。小坊主は、大変なことをしてしまつた、和尚さんにうんと叱られてしまうと思ひました。どうしようもないと、小坊主は死ぬつもりで梨をひとつ食べてしまいました。和尚さんがこの梨を食べれば死んでしまうと言つたので梨を食べたのに、どうしたことか死ぬことができません。もう一つ食べてみましたが、それでも死にません。とうとう三つ目も食べてしまいました。結局死ぬことはできませんでした。

夕方、和尚さんが帰つてきました。小坊主は、「和尚さん、和尚さん。和尚さんの大事な湯飲みを壊してしまつたので、死ぬつもりで梨を一つ食べましたが死にませんでした。また一つ、また一つ食べても死ぬことができません、この通りでございます。どうか、お許しください」と和尚さんに詫言ひました。和尚さんも、これには仕方なく許してやつたそうです。

出典：『となんの民話』（都南歴史民俗資料館、一九八八）